

第4学年 体育科 授業構想シート

授業者 則藤 一起

本実践の主張点	投能力について同質でペアを組んで話し合いや運動を行うことで、互いの課題に気付きやすくなり、より主体的に活動し、投げる力（投距離と投動作）が高まるだろう。
---------	--

1. 単元名 全Aゴルフ選手権（投の運動）

（開催地：日本(Japan)附属のリゾートゴルフコース

主 催：全Aゴルフ協会(Japan Fuzoku 4 A Golf Association))

2. 4年A組の子ども

本学級の子どもたちは、身体を動かすことが非常に好きである。1学期のキックベースでは運動の得意な子どもが苦手意識のある子どもに蹴り方や守り方を伝えたり、コンビネーションなわとびでは様々な跳び方をグループで考えて試したり、水泳学習でも友だちと見合い、顔をつけられない子どもも友だちと活動したりして意欲的に取り組んだ。しかし、休憩中の遊びを見ると、男子はサッカーと虫捕りとタブレットでプログラミングなど、女子は8の字跳びとプレイランドの遊具遊びとタブレットでプログラミングなど、外遊びと室内遊びの比は7対3ぐらいであり、運動に対する意欲は分かれている。投げ方については、ひじが下がっていたり、体をねじらずに投げたり、投げ方が身に付いていない子どもが10人ほどいる。

3. 何を学ぶのか

① 単元の目標

きまりを守り仲良く運動をしたり場の安全に気を付けたりしながら、全Aゴルフ選手権に進んで取り組み、自分やペアの課題を解決しながら、より遠くへボールを投げられるようになる。

② 教材の価値

ボール運動系は、低中学年では「ゲーム」、高学年で「ボール運動」という領域であり、指導内容に“投げる（蹴る）・捕る”といったボール操作も含まれるが、指導内容の中心は、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることである。ボールを投げる動き、特にオーバースローの動きは、低学年のうちに身に付けさせておきたい動きである。陸上運動系に走・跳の運動があるが、新指導要領では「投の運動」を加えて指導できることが示された。本単元では、ゴルフのように投距離を競うことで、どうすればより遠くへ投げられるのだろうかを問い続けながら投げ方を身に付けていくと考えた。

4. 主張の具体

本実践では、どうすればより遠くへ投げられるのだろうかを問い続けるために、同質ペアで自分達の投げ方と上手な投げ方を比べ、違いを見つけ、投げる力を高めることを目指す。同質ペアで組む理由は、互いの問題意識が近く、話し合いやすいと考えたからである。このことが主体的に学ぶしかけとなるはずである。投げ方の気付きの具体は、ペアからのアドバイスとタブレットで撮ることである。その際、どのような投げ方が遠くへ投げられる投げ方であるのかを共有しておく必要がある。話し合いの中で気付いたことを腕や足の位置、体の向きなどに分け、ポイントを整理する。そして自分の投げ方の変容がわかるように、1枚のワークシートに課題やできたことをかき込めるようにする。

5. どのように学ぶのか

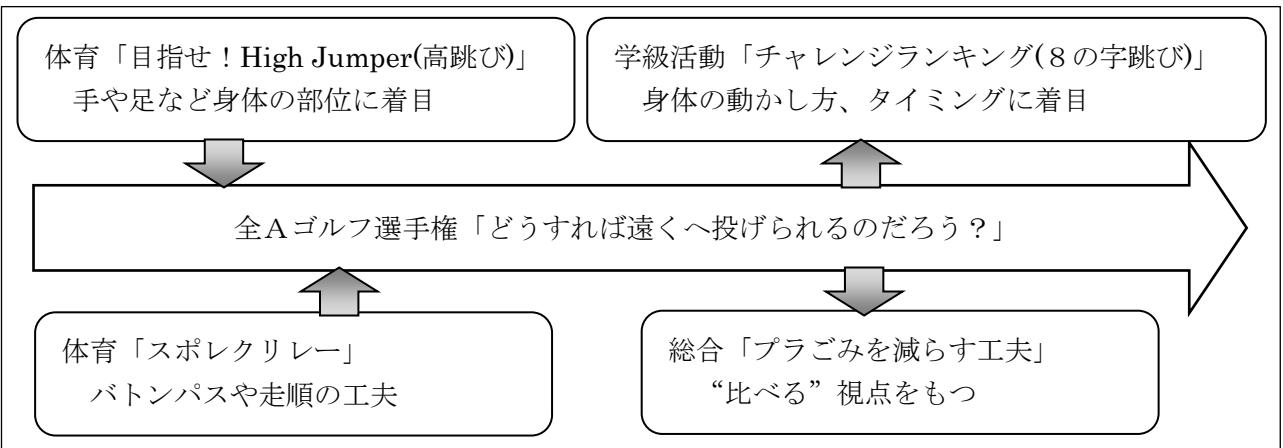
①学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

指導と評価の計画（全5時間） 本時 3/5

1. オリエンテーション
全Aゴルフ選手権を楽しむ。～どうすれば遠くへ投げられるのだろう？～
～〇〇さんはどうして遠くへ投げられるのだろう？～【思】（ワークシート）
2. 投げ方について考える。～投げる腕はどうなっているのだろう？～【思】（ワークシート）
3. 投げ方について考える。～体全体を使って投げるには？～【思】（ワークシート）
4. 自分の高めたい動きについて考える。～自分のパワーアップさせたいポイントは？～
【主】（観察・ワークシート）
5. 全Aゴルフ選手権でハイスコアを目指す。～目指せ！スローチャンピオン～
【技】（観察・ワークシート）

※踏み出し足については教える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するためのカリキュラム・デザイン



6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・より遠くへ投げる方法を理解している。 ・投げ手を頭の後ろに引き、踏み出し足を前に出し、体幹回転をさせボールを投げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやタブレットにより、投げ方についての課題を見つけ、友達と解決しようとしている。 ・友達のよい動きを見つれたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全Aゴルフ選手権に進んで取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたりしようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けている。

体育科学習指導本時案

授業者 則藤 一起

日時：令和3年10月5日（火）第6校時（14:45～15:30）

対象：第4学年A組 29人

本時の気づき	ボールをまっすぐ飛ばすにはどうすればよいかを問い、同質ペアで考えながら運動を行うことで、投げる手と反対の手の使い方に気づき、より主体的にコースで投げる姿につながるだろう。
--------	---

1. 本時の構想（働かせたい考え方と学習課題について）

くらべる つなげる まとめる わかる 予想する 見方を変える

単元を通して、“どうすれば遠くへ投げられるのだろうか？”を考え続けている。前時は、腕の使い方について考えた。腕を大きく伸ばして振るのではなく、ひじを上げて、ムチのようにしならせて投げるのである。そのためには、ひじが肩よりも上になるように、ボールを持った手を頭の後ろに持つてくることを共有した。4Aゴルフセンター（練習の場）は、それらを意識して行える場になっている。前時の活動でひじの位置が上がったことや投げる距離が伸びたことを感じた子どもが多かったが、コースを回り終えて、“まっすぐ飛ばないこと”に困っている子どもが数名いた。本時では、視点を体全体へと考えていたが、変更し、まっすぐ飛ばすためにはどうすればよいかを考える。①足幅を広げることで体が投げる方向に直線的になり体がぶれにくくなる ②投げ手と反対の手を前に出すことで投げる方向の目印になるとともに上体のバランスをとる の2点のように、“体の中心（軸）”が関係することに気付かせたい。また、リリースポイントが分からず、上に飛びすぎたり、上に飛ばなかったりする困りごともある。力の入れ方、抜き方も身に付けていく必要がある。

2. 本時における調整場面としかけ

本時では、紫1の連続写真をもとに、上述の2点について共有する。それらを考えて4Aゴルフセンターで活動する。その際、自分は①、②のどちらを意識して投げようとしているのかをペアと共有できるように帽子の色を変える。上に飛びすぎる、上に飛ばない子どもも②として活動させる。遠くの目標に投げられるように、“ラケットスロー”ではなく、“ウエウエスロー”としたい。また場については、ローテーションで回るが、①、②のそれぞれをどの場で気を付けるとよいかを共有しておくことで、その場に行ったときに、より意識して投げることができると思う。中盤では、活動して考えたことを話し合い、コースを回るときにも気をつけられるようにする。その後少し投げる時間をとり投げ方を確認してから、終盤のコースを回る活動に移る。

3. 本時におけるめざす子ども像

ペアで運動したり見合ったりすることをとおして、自分の課題はどこにあるのかを明確にし、その動きに気を付けて運動し、まっすぐ飛ばそうと考えて投げる姿をめざしたい。

4. 本時の目標

ボールをまっすぐに飛ばす投げ方についての課題を見つけ、ペアで解決しようとする。(思)

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 課題の確認</p>	
<p>どうすれば遠くへまっすぐ投げられるのだろう？</p>	
<p>○ 視線が大事だよ。</p> <p>○ バランスをくずして投げたら絶対にまっすぐに飛ばせない。</p> <p>○ 体をまっすぐにすることが大切だよ。</p> <p>2. 4Aゴルフセンターで活動（グループ）</p> <p>○ 体を横向きから始めよう。</p> <p>○ 足の幅を大きくしよう。</p> <p>○ 左手を前に出すって？</p> <p>○ ボールを頭の後ろから投げることも気をつけないといけなかったな。</p> <p>3. 話し合い</p> <p>○ 足の幅を広げすぎても投げにくかった。</p> <p>○ 体のバランスをとることがやっぱり大切だった。</p> <p>○ でも力を入れすぎるとロボットみたいになるからね。</p> <p>4. 全Aゴルフコースを回る</p> <p>○ 左手を出して投げるぞ！</p> <p>○ 50m飛んだよ！</p> <p>○ スコアの回数が減ったよ！</p> <p>5. ふり返り</p> <p>○ 左足を大きく出すと、遠くへ投げられたよ。</p> <p>○ バランスをとるには、体の中心がまっすぐってことが大切だよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紫1の連続写真から気が付いた点を共有し、本時の自分の課題へとつなげる。 ・ 課題を互いに共有しやすいように、帽子の色を変えさせる。 ・ それぞれの場で課題に気をつけながら活動しているかを観察し、足を広げる幅や投げ手と反対側の手について声をかける。足の広げる幅については、マットを用意する。 ・ 投げ手の位置についても下がっていないか確認するように声をかける。 ・ 活動して考えたことをふり返る時間となるように話し合いをし、コースでもどこに気をつけて投げるのかを明確にさせる。 <p>思 ボールをまっすぐに飛ばす投げ方についての課題を見つけ、ペアで解決しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題に気をつけて投げられるよう声をかけ、一投一投を大切にさせる。 ・ 体の動かし方についてふり返り、遠くへまっすぐ飛ばせる投げ方についてまとめる。 ・ 困りごとを共有する。